

人とかかわる力を高める 実践的・体験的な学習指導の工夫

新学習指導要領では「家族・家庭と子どもの成長」のねらいが「幼児とのふれあいや家族・家庭に関する実践的・体験的な学習活動を通して幼児に関心をもたせるとともに、自分の成長や家族・家庭、幼児の発達と生活において関心と理解を深め、家族や幼児に主体的にかかわることができること」「これからの生活を展望して、課題をもって家庭生活をよりよくしようとする能力と態度を育てること」と明記された。人とかかわる場面を工夫することで家庭・家族の大切さについて理解を深めさせたい。

1. はじめに

「よりよい生活者」を「人とかかわる力が高まり、自分も家族の一員であるという意識を高め、将来にわたってよりよい家庭生活を送ることができる者」ととらえ「自分と家族」に焦点をあて、人とのかかわりを重視したよりよい家族関係を考えていくようにする。

2. テーマにせまる具体的な手立て

①実践的・体験的な学習活動の充実

ア 幼児ふれあい体験

幼児理解を深めるために2回行う。成就感や人とかかわることの楽しさを感じ取ることができる。

イ 家族に関するロールプレイング

模擬家族を通して、家族それぞれの立場に立った気持ちを考えさせることで、家族の問題点を見出すことができる。

ウ ゲストティーチャーとのかかわり

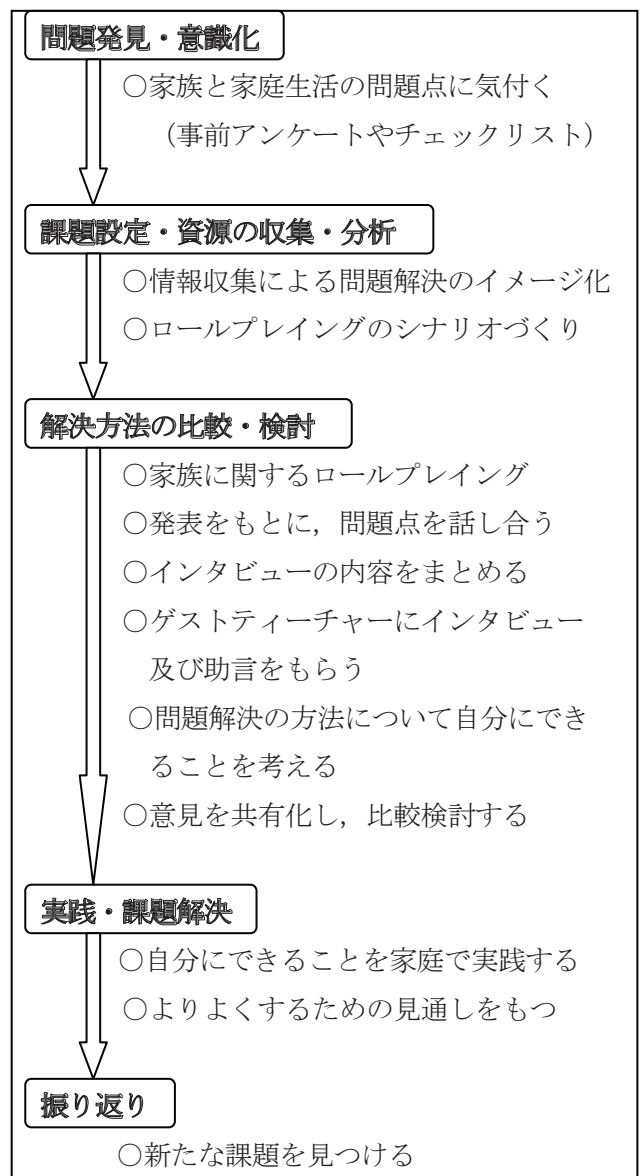
さまざまな立場のゲストティーチャーを招き、それぞれの立場から助言をもらうことで、自分の考えや話し合いを深めることができる。

②指導計画

3年生の時期は、自分を取り巻く人々に支えられていることを改めて実感できる発達段階にあると考え、家族と家庭生活の内容を3年生で扱う。

- 1年生・・・A (1) 自分の成長と家族 ガイダンス
- 3年生・・・A (3) 遊び道具製作と幼児とのふれあい
- A (2) 中学生にとっての家族

③問題解決的な学習と学びのサイクル



3. 授業展開

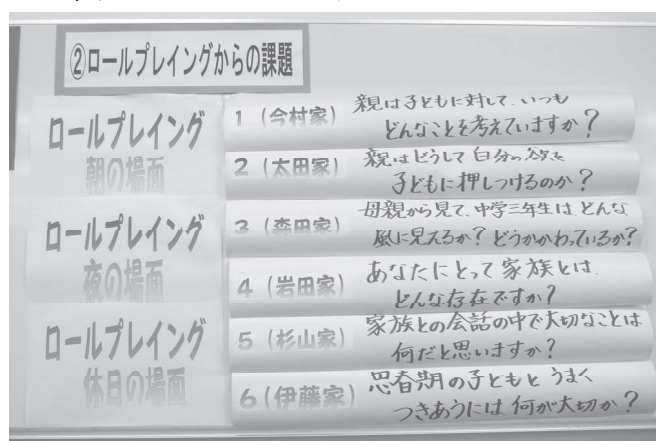
「中学生にとっての家族を考えよう」

①家族に関するロールプレイング

ア 3つの場面を設定する

- ・ある朝の家族の会話：朝忙しい母の仕事は？
- ・帰宅時刻が遅れて：夕食の時刻に遅れたら
- ・休日の家族の会話：外食をしようとするが

イ ロールプレイング後の話し合いから出てきた
家族とのかかわりへの問題点



ウ ロールプレイング実施時に留意すべきこと

- ・ロールプレイングはあくまで演技。授業が終わったらそこで終わり。授業以外の場で話題にしないこと。
- ・人権や命にかかわるような発言はしない。
- ・拍手で始まり拍手で終わる。演じる方も観察者も真剣に取り組む。

②ゲストティーチャーとのかかわり

はじめに、前時のロールプレイングで挙げられた疑問や問題点の質問内容と、誰がどのゲストティーチャーにインタビューするのか等の役割分担を確認する。そしてゲストティーチャーであるスクールカウンセラー・教育相談センター職員・巡回相談員の3人を紹介する。その後、それぞれが3つのブースに移動し、生徒の進行によりインタビューを開始。必要に応じてメ

モを取り、約15分間のインタビューのなかで、新たに生じた疑問点に対して、積極的に質問する様子が見られた。ここではインタビューを通して、家庭生活の問題点を自分なりに解決しようとする、家族関係をよりよくしようとする方法を考える等の活動が、意思決定能力を高めていく手だてになった。

次に、インタビューの内容をグループに持ち帰り、報告し合ってゲストティーチャーのアドバイスを共有した。ゲストティーチャーの話聞いて、親も自分と同様に悩みを抱え、子どもに対して素直に言えない気持ちがあることに気付いた。

グループの課題の解決方法については、ボードを用いて発表し合い、各グループの意見を知る。個人のカードには、自分にできることを記入した。生徒のつぶやきをとらえ、ゲストティーチャーも積極的に助言したことが、家族や育ててくれた人たちとの関係づくりで何が大切か、自分と家族とのかかわり方をよりよくする方法について考えることができた。



4. 終わりに

家族とのかかわりにおいて、よりよい家族関係を作ろうという考えをもたせるのに有効である。家庭での実践をどのように見取っていくかが課題である。

参考文献・参考Webページなど

- ・茨城県教育研究会 家庭、技術・家庭教育研究部
<http://gika.net/gika/kanburo>